

## 平成26年度「全国学力・学習状況調査」における

### 日明 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

##### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 日明 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

#### ・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率をやや下回っていたが、書く力を問う問題では、全国平均をやや上回っていた。
	よくできた問題	・情景描写を正しく理解し適切なものを選択する問題は、全国平均よりも正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・話合いの観点に基づいて情報を関係づける問題や物語の登場人物の相互関係を捉える問題については、正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたが、言語についての知識・理解・技能の能力は全国平均を上回っていた。
	よくできた問題	・二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・詩の解釈における着眼点の違いを捉える問題や、二つの詩を読み比べて読み、表現の工夫を捉える問題については、正答率が低かった。

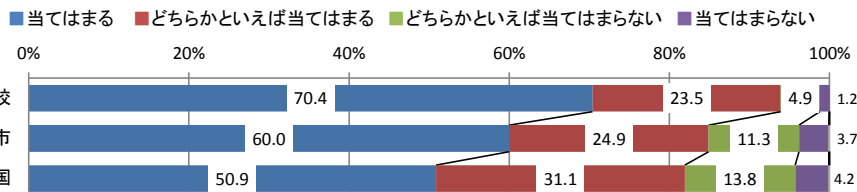
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたが数量関係を問う問題では、全国平均をやや上回っていた。
	よくできた問題	・二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付ける問題や、四則の混合した式の意味について考える問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・小数第1位までの減法の計算をする問題は正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っているが、応用問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・数量や図形についての技能が高くなり応用できるようになってきている。
	よくできた問題	・示された情報を基に、条件に合う時間を求める問題や全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・数量関係を相対的に捉えその関係を表している図を選択する問題や、示された情報を整理し筋道を立てて考え小数倍の長さの求め方を記述する問題の正答率が低かった。

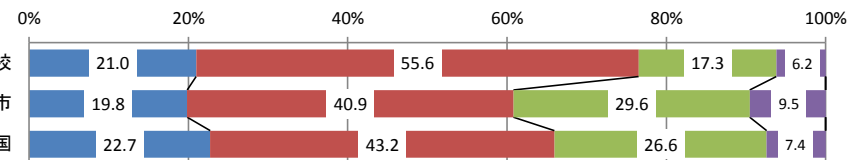
### ③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

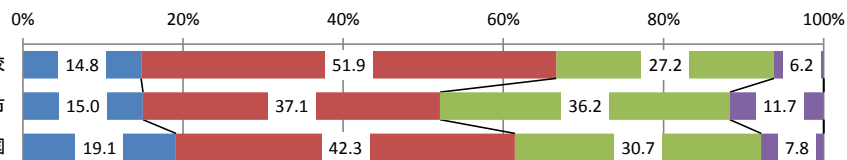
44
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う



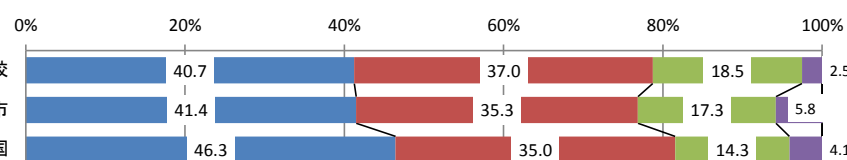
48
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか



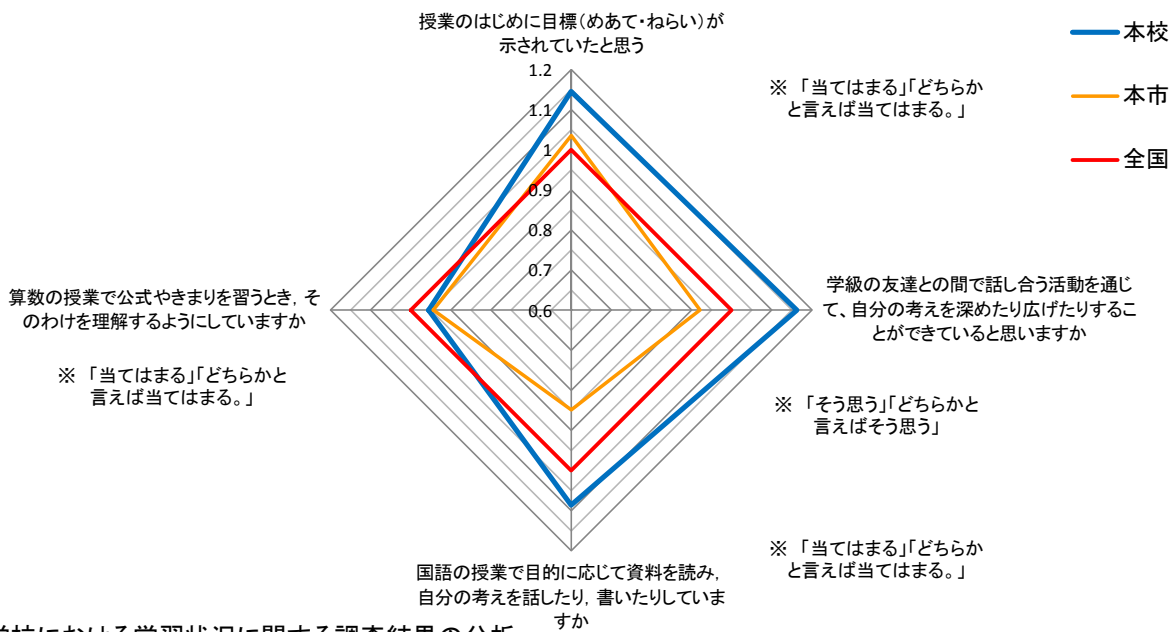
55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



70
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



### ④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



### ⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

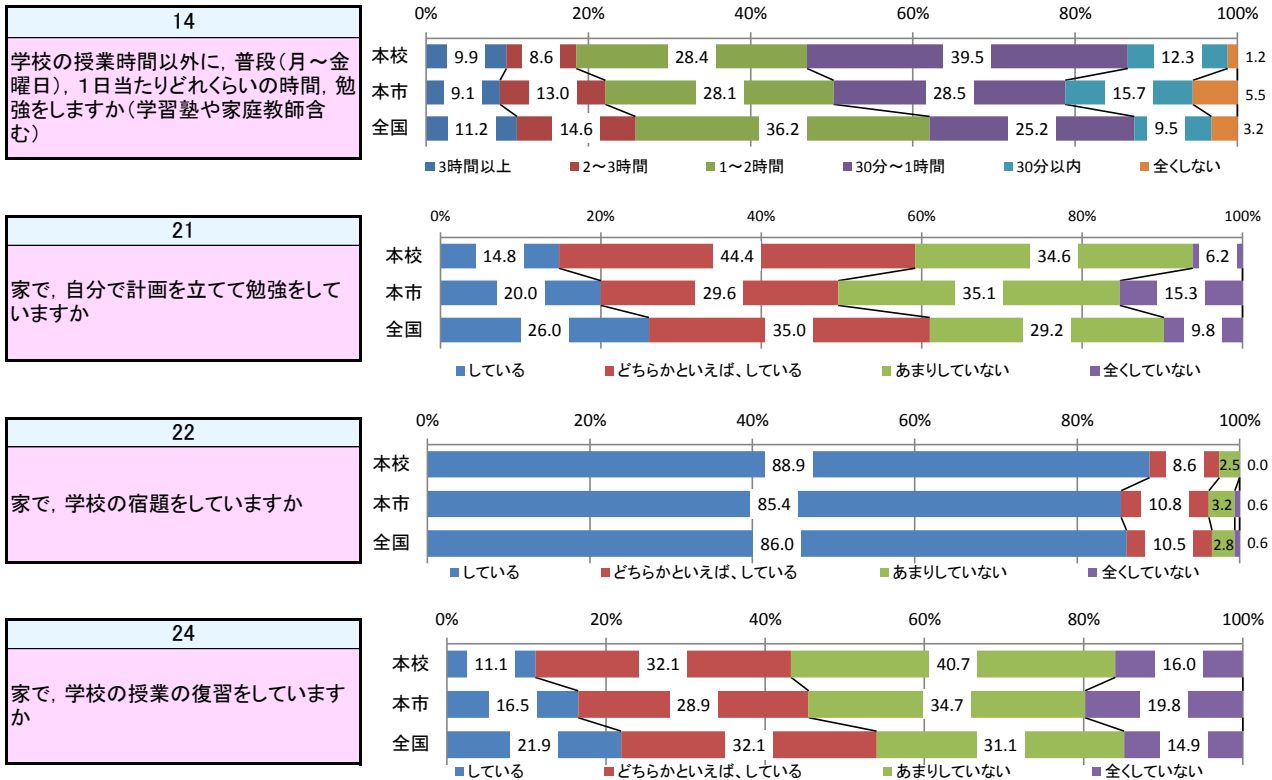
・授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思うと答えた児童は、全国平均よりかなり高かった。これは、全職員が授業の中で取り組み目的意識をもって授業改善を実践した成果であるといえる。

・「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と答えた児童の割合が高い。これは普段の授業の中で、お互いの考えを出し合い質の高い授業が行われていることの表れである。今後は、筋道を立てて考えさせ、自分の考えを書かせたり解決した過程を説明したりする場面を授業の中で必ず取入れるようにするとさらに力が伸びると考えられる。

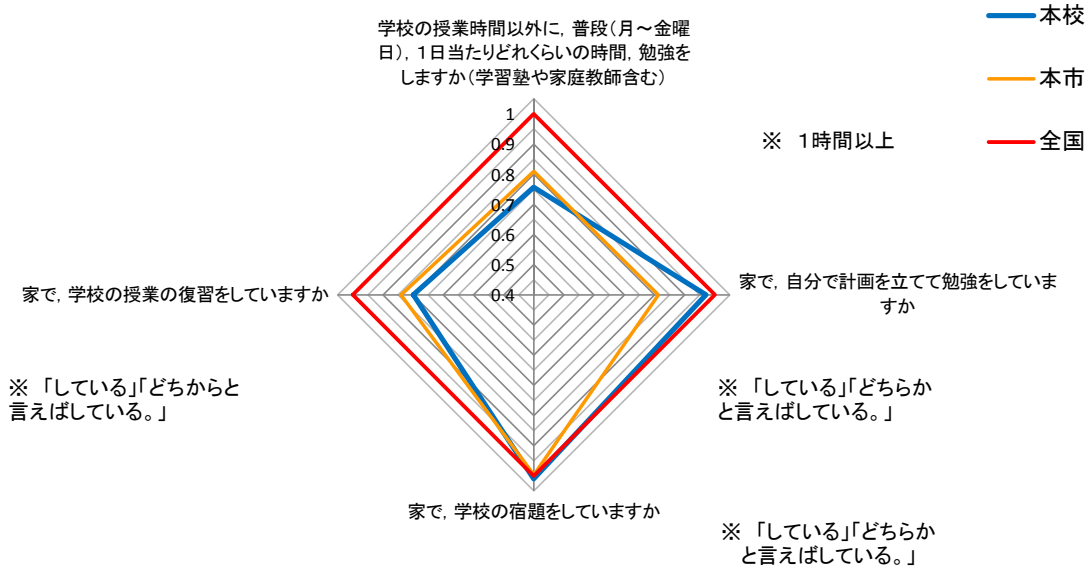
・本校の児童は、算数の学習に興味をもち日常で使ってみようという意識が全国平均よりも高いが、公式やきまりのわけを理解するようにしていると答えた児童の割合は、あまり多くない。公式やきまりのわけをしっかりと理解させるためにその公式が導かれた過程を児童が自分の言葉で説明させるようにする。そうすればしっかりと定着でき、それに基づいて考えさせるようにするとさらに力が伸びると考えられる。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



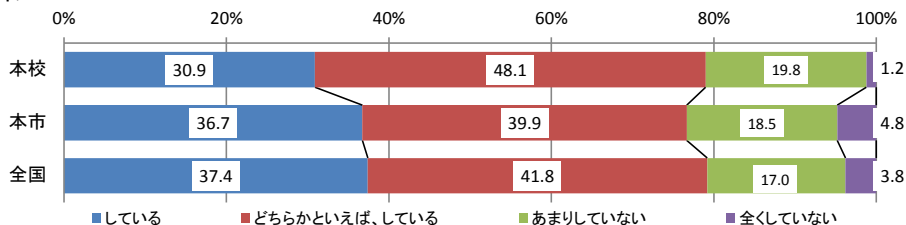
### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・本校の児童は学校の宿題は、きちんとしている。また、6年生の家庭学習時間の目標60分以上している児童は、50パーセント近くにまで達してきているが、更にめやすを示し、計画的に進められるように指導する必要がある。

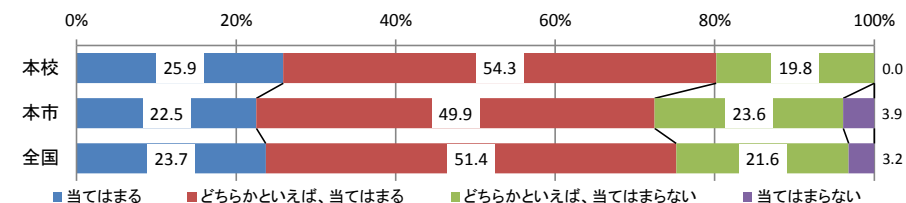
・家で、自分で計画を立てて勉強している児童は全国平均よりわずかに少ないが昨年度よりも増えてきている。これは、家庭学習の大切さを呼びかけてきた成果であると思われる。今後さらに、家庭学習の具体的な取り組み方を指導するとともに家庭の協力が得られるように工夫する必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

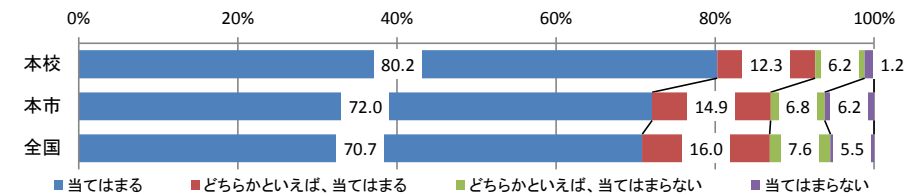
2  
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



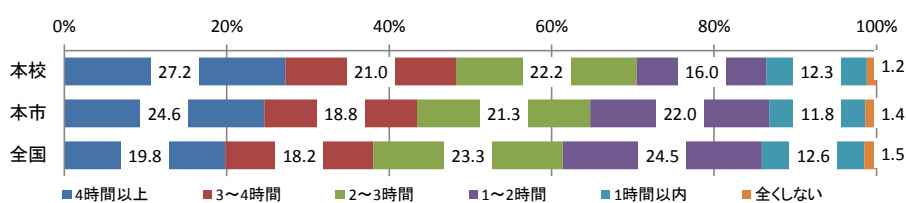
5  
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



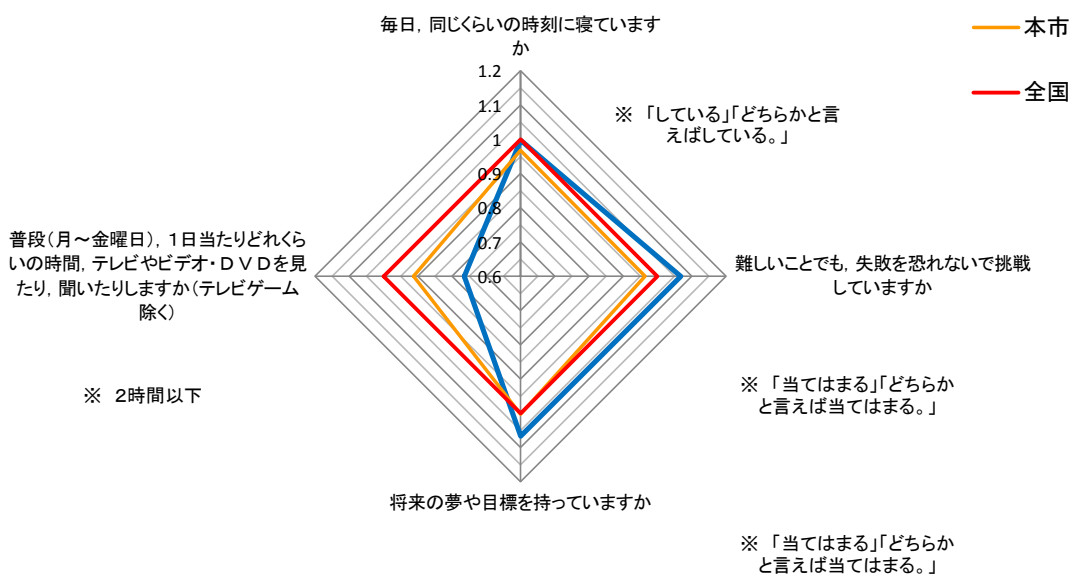
10  
将来の夢や目標を持っていますか



11  
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・毎日同じくらいの時刻に寝ている児童が多く、家庭での規則正しい生活習慣が身に付いてきていると言える。  
 ・「どんなことでも失敗を恐れなくて挑戦する」という児童が全国平均より割合が高い。これは、家庭や学校でさまざまな体験を積み重ねながら、成就感を味わい認められているからと考えられる。また、各担任が日々の子どもの様子を学級通信や保護者との面談によって伝えることにより、ほめられる機会が多くなっているからと考えられる。  
 ・将来の夢や希望を持っている児童の割合が高く昨年度よりもさらに増えてきている。その夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。  
 ・テレビやビデオ・DVDの視聴時間が長く、学習時間が短い。家庭での時間の使い方を見直させ、学習時間を増やす必要がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

##### ◎ 学力向上のための特設時間の実施

- ・朝自習で日明国語タイムと日明算数タイムを水曜と金曜の朝15分間設定し、全校一斉に学習しています。
- ・全校放送で、一斉に学習を始める。
- ・小中連携サポーターの先生が6年生算数科の授業の学習補助を行い、習熟の程度に応じた個別指導をしたり、さらに学力をつけるためのプリントや教材を整備したりしています。

##### ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・昨年度取り組んできて、成果をあげてきているので、今年度も継続する。
- ・基礎学力の定着を図るための問題やワークを活用し、学年で取り組んでいます。

##### ◎ 書くことの習慣化

- ・学習のめあて、まとめを確実にすばやく書けるようにしています。
- ・学習の終わりに「振り返りタイム」として今日の学習で分かった事や感想等を書く活動を積極的に取り入れています。
- ・学年に応じて、体験したことや自分の思いや考えを書く活動を積極的に取り入れています。

##### ◎ 習熟度別の少人数編成による授業

- ・少人数担当教員や小中連携教員・教務主任等が入り、習熟度別クラスによる授業を行い個の実態に応じたよりきめ細やかな指導を実践しています。

##### ○ 「朝自習復習プリント」(北九州市算数研究会作成)を活用し既習の学習の振り返り(問題解決のポイントや覚えておきたい内容を確認する)や発展的な問題(もっとやってみよう)に取り組めるようにする。

##### ○ 授業研究を同学年で言い授業内容を充実させる。

- ・同学年で教材研究を行い、育てたい力を明確にして子どもの思考過程に沿った授業展開を行うようにする。
- ・学年の発達段階に応じて、授業で児童が問題を解決した時には、その過程を児童自身できちんと説明する場を授業の中で必ず設定するようにする。
- ・教材研究して作った教材や展開例などは、学年別にファイルして残し、次年度に引き継いでいく。

##### ○ 日明小学校の学習規律のスタンダード化

- ・学習規律や学習指導方法を共通理解し、指導を徹底させるために「日明小スタンダード(共通実践)」を作成し、授業改善に努めます。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

##### ◎ 宿題のスタンダード化

- ・家庭学習時間の設定(低学年・・・20分、中学年・・・40分、高学年・・・60分程度)
- ・学年に応じて自主学習ノートの活用(書き方使い方の具体例知らせる。)
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して、家庭の理解と協力を得ながら意欲の持続を図っています。

##### ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組を保護者へ知らせる。

- ・学校だよりや学年だより等で知らせ、家庭学習の具体的な取り組み方等について家庭の協力が得られるようにする。

##### ○ 保護者へ「ケータイ夜10時電源OFF運動」や「家庭での時間の使い方」について、PTAと連携して繰り返し呼び掛けてもらい、家庭生活習慣の見直しを促していく。